２０２１年３月期

第２四半期決算概要

2020年11月12日

日本タングステン株式会社

■経済環境

日本タングステン株式会社

【経済環境】

・新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が停滞し、景気は引き続き厳しい状況で推移

・一部の市場で持ち直しの動きも見られるが、設備投資の抑制等もあり、依然として先行き不透明な状況が続いている

【当社グループの重点市場の状況】

■半導体・電子部品市場：引き続き堅調に推移

■自動車市場：上期は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるも、第2四半期の後半から大きく回復傾向へ

■衛生・医療市場：衛生市場で引き続き低調

【ウイズ・コロナ環境下の取組み】

・新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に抑えるため、Web会議を利用した打合せや案件フォロー等の営業活動を継続

・二軸押出機部材等の注力すべき開発商品については、優先的にリソースを投入する取り組みを行う等、今後の業績回復に向けた施策の取り組みを強化している

■当社グループの業績等

日本タングステン株式会社

●損益の状況（連結）

（単位：百万円）

	2020年３月期 第2四半期	2021年３月期 第2四半期	対前年比 増減額（増減率）
売上高	5,711	4,705	Δ1,006（Δ17.6%）
営業利益	267	Δ7	Δ274　－
経常利益	351	136	Δ214（Δ61.1%）
親会社株主に帰属する四半期純利益	267	148	Δ118（Δ44.4%）

●財務の状況（連結）

（単位：百万円）

	2020年 ３月期 期末	2021年 ３月期 第２四半期	前連結会計年度末比増減額
総資産	16，140	15，182	△958
負　債	6，154	5，175	△979
純資産	9，986	10，006	20

≪ 2021年3月期第2四半期の概況≫

市況の低迷により減収・減益

【機械部品事業】

・売上はNTダイカッターが顧客の設備投資抑制等により低調に推移、一方ハードディスクドライブ用磁気ヘッド基板が堅調で増収。

・損益は前期比若干の減益

【電機部品事業】

・売上は自動車市場が新型コロナウイルスの影響を受け、抵抗溶接用電極及びEV用接点が減少

・損益も前期比大きく減益

≪2021年3月期第2四半期末の概況≫

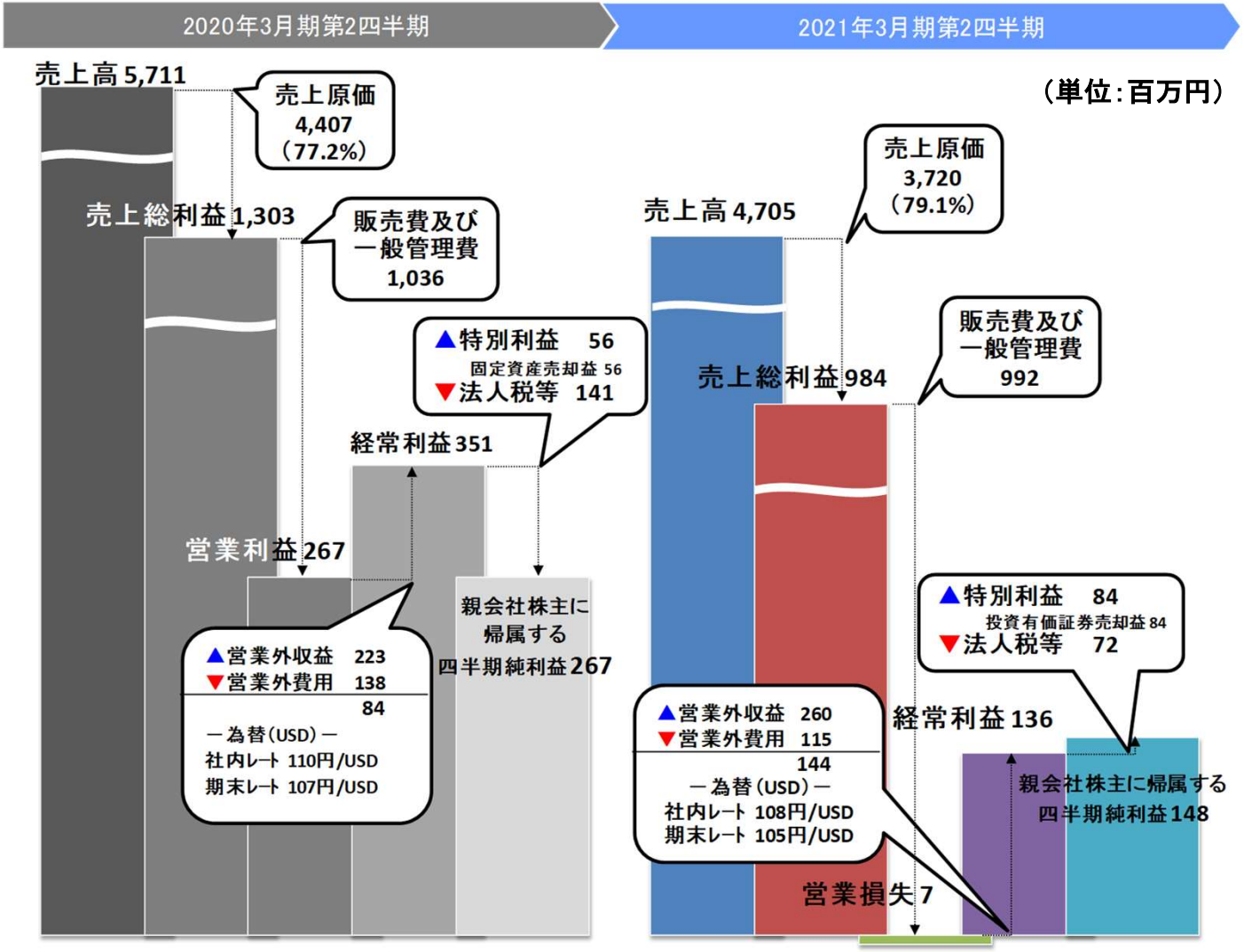
・総資産：前期末比、958百万円減少
（流動資産、固定資産ともに減少）

・負　債：前期末比、979百万円減少
（流動負債は減少、固定負債は増加）

・純資産：前期末比、　20百万円増加

■損益の概況（連結）

日本タングステン株式会社



項目	要因
売上総利益	売上高の減少により減益
営業損失	経営改善策（コスト削減活動等）を積極的に進めるも、売上高の減少が大きく、損失となる
経常利益	営業損失になりましたが、不動産賃貸料の増加及び雇用調整助成金の計上により、利益は確保
親会社株主に帰属する四半期純利益	特別利益として投資有価証券売却益を計上するも、各利益が減少し減益

■セグメント別の状況

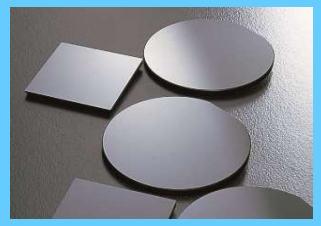
日本タングステン株式会社

機械部品事業

衛生・医療市場

衛生用品関連のNTダイカッター

・新型コロナウイルス感染症の影響等により顧客の設備投資を控える動きが強まり減収



半導体・電子部品市場

情報機器関連のハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板

・データセンター向け大容量HDDの需要が引き続き好調で増収

	2020年3月期第2四半期	2021年3月期第2四半期	対前年四半期比
売上高 （百万円）	3，130	2，877	△253 （△8.1%）
営業利益 （百万円）	212	203	△8 （△4.2%）

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

■セグメント別の状況

日本タングステン株式会社

電機部品事業

自動車市場

自動車関連の抵抗溶接用電極及びEV用接点

・新型コロナウイル感染症の影響が大きく、
世界的な自動車販売台数の大幅減少により減収

衛生・医療市場

カテーテル用タングステンワイヤー製品

・第１四半期は堅調も、第２四半期で顧客の在庫調整
もあり、ほぼ横ばい

	2020年3月期第２四半期	2021年3月期第２四半期	対前年四半期比
売上高 （百万円）	2，610	1，841	△768（△29.4%）
営業利益 （百万円）	331	40	△290（△87.7%）

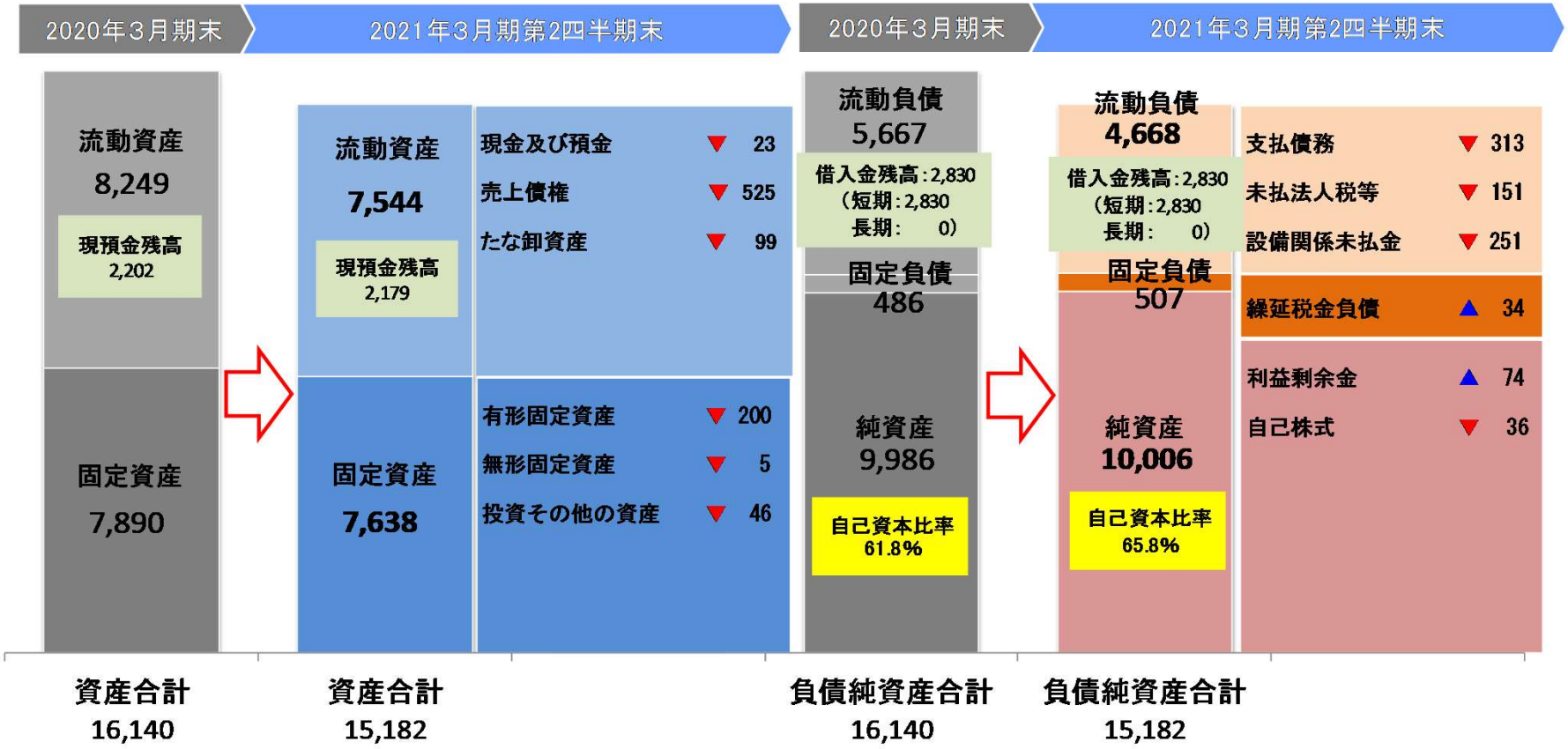
※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

■財務の状況（連結）

日本タングステン株式会社

（単位：百万円）

科目	2020年３月期 期末	2021年３月期 第２四半期	前連結会計年度末比 増減額
総資産	16，140	15，182	△958
負　債	6，154	5，175	△979
純資産	9，986	10，006	20

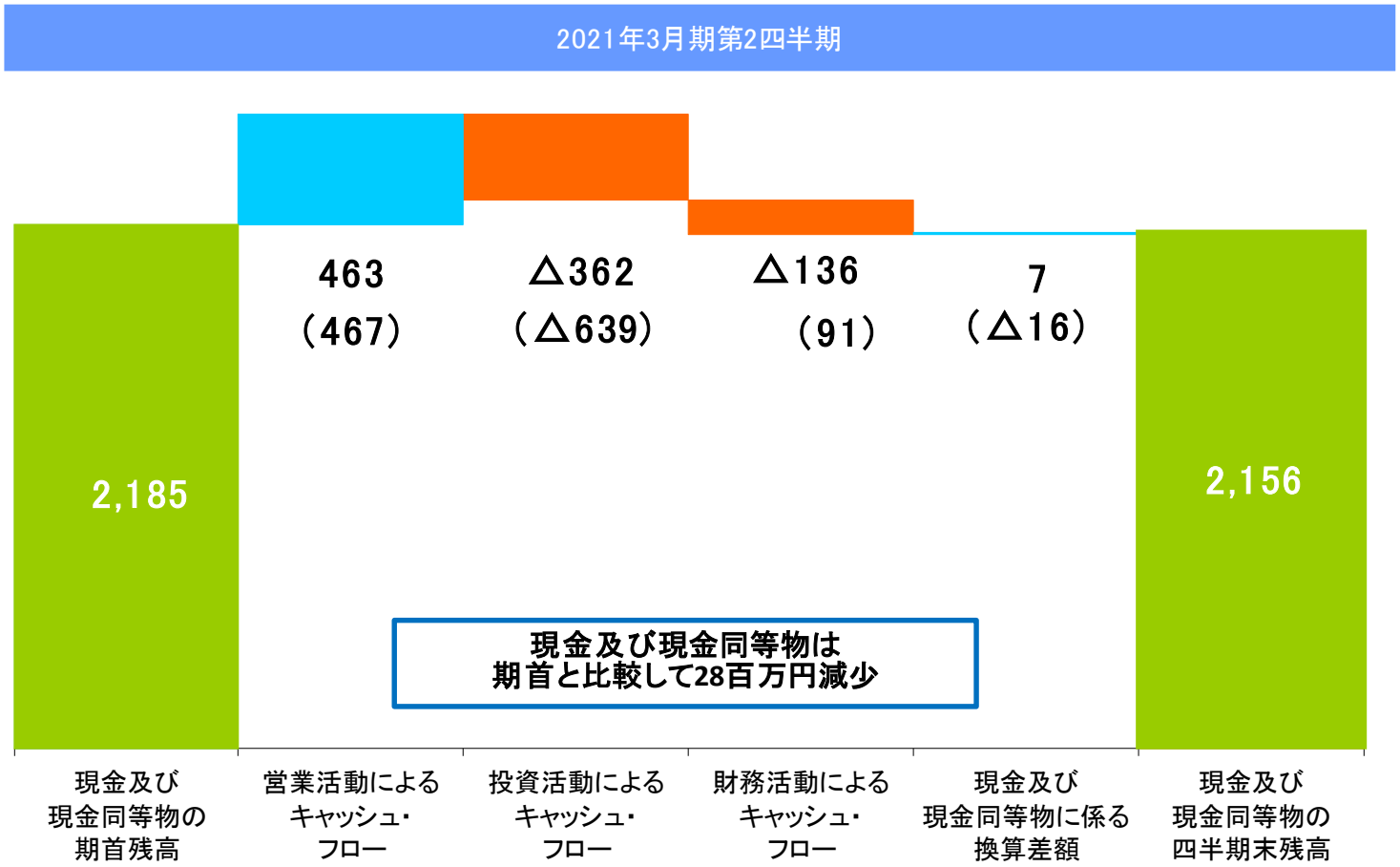


■キャッシュ・フローの状況（連結）

日本タングステン株式会社

四半期純利益は減少も、在庫増減や売掛金回収等で、営業CFは同規模。
設備投資の抑制と追加借入増もなかったことで、現預金残高もほぼ変わらず。

（単位：百万円）



※（　）は2020年3月期第2四半期の金額

■業績予想について

日本タングステン株式会社

【業績予想における仮定】 新型コロナウイルス感染症の影響により低迷している経済活動が、
年度末にかけて下半期徐々に回復していくとの仮定に基づき業績予想を算定

新型コロナウイルス感染症の影響等により、依然として先行き不透明な状況が続くことが予想される。
当社グループの業績への影響については不確実性が残っており、今後の動向を慎重に見極める必要があることから、現段階では2020年８月５日に公表した2021年３月期の業績予想については据え置いた。

業　績 （連　結）	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	親会社株主に帰属する当期純利益 （百万円）	1株当たり当期純利益 （円）
通期予想	9,800	30	360	290	120.32
前期実績	11,607	502	671	598	245.97

業　績 （個　別）	売上高 （百万円）	営業利益 （百万円）	経常利益 （百万円）	当期純利益 （百万円）	1株当たり当期純利益 （円）
通期予想	9,300	△80	310	270	111.65
前期実績	11,093	498	907	776	318.77

■中間配当及び期末配当予想

日本タングステン株式会社

【配当方針】
当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な企業財務体質の強化等を総合的に勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めます。
また、一株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めます。

【中間配当】
第2四半期業績は、ほぼ上期予想通りに推移しており、通期業績予想も据え置くものの、今後の動向には不確実性が残っており、慎重に見極める必要があることから、中間配当金は**8月5日に公表したとおり、見送り**とする。（前期中間配当は1株当たり40円）

【期末配当予想】
期末配当予想は、**8月5日に公表したとおり、1株当たり40円**（前期30円）
年間配当予想は1株当たり40円（前期70円）となる。

配当	1株当たり配当金（円）		
	第２四半期末	期末	年間
予想	0.00	40.00	40.00
前期実績	40.00	30.00	70.00

■ご注意

日本タングステン株式会社

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。